

障害者の雇用は、まず市から 「誰もが一生懸命、頑張っています」

市民福祉常任委員会
宇都市視察
釘丸久子議員

厚木市議会市民福祉常任委員会では、11月8・9日、山口県宇都市に、障害者就労支援及び、障害者就労ワークステーションの取り組みについて視察をしました。

宇都市は、本州の最西部・山口県の瀬戸内海沿岸の市。人口は17万4千人。戦災により市街地の大半が焼失しましたが、戦後の石炭景気に支えられて順調に復興。その中心企業である宇都興産の創業者・渡辺祐策氏（1864～1934）は「石炭はやがて掘り尽くされる。有限の石炭を元手に、無限の工業を起こさねばならない」と、石炭関連の工業から、化学工業を多岐にわたって展開。大工業都市として、バブル期も乗り切ってきました。産官民学の共同のまちづくりを進めています。また、都市緑化や公園整備、特に彫刻によるまちづくりでも有名です。



宇都市ときわ公園のペリカン島
（飛べないように、羽の腱を切っています）

障害者就労支援ネットワーク

宇都市は障害者就労支援ネットワーク会議を平成19年4月に立ち上げました。就労支援、移行支援、継続支援の3つのワーキンググループで活動しています。

企業説明会や障害者の就労事例集の発行、障害者激励会などを行っています。ネットワーク会議の設立により、障害者雇用・就労に関する周知とネットワークが広がりました。

課題として浮き彫りになってきたのが、①企業へのさらなる啓発、②障害のあることをオープンにできる環境づくり、③中途障害者への支援、などです。

今後も継続的な取り組みが必要であると述べていました。

障害者就労ワークステーション

市役所内に「障害者就労ワークステーション」を平成22年4月に設置しました。

事業の目的は、①知的障害者や精神障害者の就労を支援する、②市役所も一事業所として、障害者を積極的に雇用し、働く意欲のある障害者の自立を促進する、③市内業務の効率化を図る、④市が率先して臨時職員として雇用することにより民間の障害者雇用の促進を図る、とあります。

平成22年度の採用試験には52人が応募しました。採用は4人。23

年度は39人が応募し、3人採用で、高い競争率となっています。1日7時間、月20日程度、月額49,000円です。最初の2週間はビジネスマナーの研修、実務演習を行います。

役所内の各課から依頼を受けた業務を集約して、事務処理をしています。現在従事している主な業務は、データ入力（建築指導課、介護保険課、文書封入（介護保険課、健康推進課、障害福祉課など）、郵便物開封、印刷、会場設営など50セクション130種類に及んでいます。仕事は部屋の中だけでなく、各課に出向いて行うこともあります。

毎日、朝礼（司会は持ち回り）ではテーマを決めて一人一言ずつの発言、体調確認、その日の作業予定を説明します。業務日報を書き、終れて1日の感想を述べて、翌日の予定を確認します。

ここでの就業は2年間。来年4月には1期生の任期満了です。今から就職に向け、ハローワーク登録や個別面談、企業見学、仕事体験などを行っています。

ワークステーションで働いている人たちは「初めは緊張したが、しだいに慣れてきた」「一生懸命仕事に取り組んでいます」「入所できてよかった。入れなければ生活できない」「生活にリズムが生まれた」「辞める時が来ることが不安だったが、相談して楽になった」「一般企業で職を見つけた」と「メンバーの想い」に述べています。

視察を終わって

市役所が一企業として障害者を率先して雇用したことに、宇都市の障害者への思いが感じられました。ワークステーションでの説明は、障害者目が行いました。大変緊張している様子でしたが、しっかりとわかりやすく説明してくれたので、拍手が沸き起こりました。市の職員「誰もが一生懸命で、きちんと仕事をしています。障害者への見方が変わった」と言っていたのが大変印象的でした。

今週の活動から



都留市観光親善大使「つるビー」と一緒に。都留市にはムササビが多く生息しています。細く見えるでしょ。（左：釘丸議員）



厚展会場で。厚展は厚木市文化会館（地下展示室・4階集会室）で12日から20日まで開催しています。（右：栗山議員）